

# 豊かさのための 労働時間

金属労協は2018年闘争において、「良質な雇用の確立に向けた働き方の見直し」の観点から、2000時間台にとどまっている年間総実労働時間について「1800時間台の実現を目指す」方針を打ち出した。国内では政府による「働き方改革」について議論されているが、海外ではドイツ・IGメタルが先進的な労働時間短縮の権利を勝ち取り、注目を集めている。

今号では、単組やIGメタルの労働時間短縮などの取り組みを紹介するとともに、ホワイトカラーの働き方の現状や課題、政府が打ち出している高度プロフェSSIONナル制度の問題点を提起し、働く者の視点に立った働き方と労働時間について考察する。

